

授業科目名	単位数	学習形態
憲法	2単位	レポート・科目試験

授業の到達目標及びテーマ

憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構が作られているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が保障される。これが憲法の構造である。そして、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。このことを忘れてはならない。以上を理解することが、この講義の目的である。

《到達目標》

1. 日本国憲法の成立過程を説明できる。
2. 日本国憲法の基本原理とその相互関係を説明できる。
3. 日本国憲法の基本的な条文について通説・判例の見解を説明できる。

授業の概要

日本国憲法の全体像が理解できるようにする。初めのうちはやや難しいと感じるかもしれないが、テキストを読むうちにだんだんわかるようになってくる。条文を重視し、偏りのない解釈に基づいた解説をする。

授業計画　テキストによる通信授業

1. <憲法と立憲主義・日本国憲法史>
2. <日本国憲法の構造・基本原理・象徴天皇制>
3. <基本的人権の保障>
4. <精神的自由権>
5. <身体の自由>
6. <経済的自由権>
7. <社会権>
8. <参政権と國務請求権>
9. <統治機構の基本原理>
10. <国会と立法権>
11. <内閣と行政権>
12. <裁判所と司法権>
13. <財政>
14. <地方自治>
15. <憲法改正>

テキスト

「憲法」(配本テキスト)

参考書・参考資料等

「ポケット六法」「デイリー六法」「コンサイス六法」などの「六法」

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

授業科目名	単位数	学習形態
情報リテラシーと処理技術	2単位	レポート・科目試験・スクーリング

授業の到達目標及びテーマ

情報システムの発展と役割について理解を深め、これから的情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。

《到達目標》

1. 情報化社会の発展について理解する。
2. コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）アーキテクチャの基本を理解する。
3. 情報ネットワーク（インターネットなど）の基本を理解し、活用できるようになる。
4. 情報システムの課題について理解し、活用するために必要となる知識を身に付ける。
5. パソコン操作の基本を身に付ける。
6. ワープロソフトの基本操作を身に付ける。
7. 表計算ソフトの基本操作を身に付ける。

授業の概要

テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。

授業計画　テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. <情報化社会> | 1. <Windows の基本操作> |
| 2. <コンピュータの発展> | 2. <文書作成の基本① (書式設定)> |
| 3. <ハードウェア> | 3. <文書作成の基本② (図形・表)> |
| 4. <ソフトウェア> | 4. <文書作成の基本③ (ページ設定)> |
| 5. <情報ネットワーク> | 5. <表計算の基本① (書式設定)> |
| 6. <インターネット> | 6. <表計算の基本② (計算式・関数)> |
| 7. <情報システムの課題> | 7. <表計算の基本③ (グラフ機能)> |
| | 8. <表計算の基本④ (データベース機能)> |

テキスト

「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。

科目的成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

【面接授業】

領域	割合	評価基準
受講態度	10%	授業に臨む姿勢、積極性を基準とする。
課題	30%	授業内で指示した課題が提出されているかを基準とする。
その他		
単位認定試験	60%	筆記や実技などでの試験を行い、その結果を基準とする。
特記事項		上記3領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。

授業科目名	単位数	学習形態
健康科学	1単位	レポート・科目試験

授業の到達目標及びテーマ

日々健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければならない。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。

《到達目標》

自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。また、救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身に付けるとともに、生涯における健康な生活設計（薬物・アルコール・たばこ・エイズ等）への自己の健康管理ができるようになる。

授業の概要

健康科学のテキストにより科学的健康づくりを学ぶ。

授業計画 テキストによる通信授業

1. 生活と運動 生活習慣病について
2. 薬物・喫煙・飲酒と健康
3. 健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る
4. 救命救急 救急処置についての知識と対処法、AEDの取扱い方
5. 運動の基礎理論 体力の概念とトレーニング理論とその方法について
6. 運動処方① 運動処方にについて学ぶとともに熱中症の対処法
7. 運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチについて
8. 自己の健康 自己のライフスタイルでの健康づくり

テキスト

「健康科学」（配本テキスト）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

授業科目名	単位数	学習形態
スポーツ(実技)	1単位	スクーリング

授業の到達目標及びテーマ

生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身に付けることを目的とする。各種目に関する講義も適宜行い、健康と安全に留意しながら個人的・集団的スポーツを楽しむことができる作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学ぶ。各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができる。また、障がいを持つ人ができるスポーツも体験・理解する。

《到達目標》

バレー・ボール・バドミントン・バスケットボール・卓球などを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。

授業の概要

各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。

授業計画　スクーリングによる面接授業

1. ガイダンス
2. バレーボール①基本練習・応用練習
3. バレーボール②ゲーム・審判
4. バレーボール③ゲーム・審判
5. 体つくり運動、エアロビクス運動、ダンス
6. バドミントン①基本練習
7. バドミントン②シングルスのゲーム
8. バドミントン③ダブルスのゲーム
9. バスケットボール①基本練習・応用練習
10. バスケットボール②ゲーム・審判
11. 卓球①基本練習
12. 卓球②シングルスのゲーム
13. 卓球③ダブルスのゲーム
14. 障がいを持つ人のスポーツを学ぶ（風船バレー・ボールなど）
15. ウォーキングとその効果について

※施設・用具の都合で実施できない場合は、他の種目に替える場合もあります。
その際、個人的・集団的スポーツをバランスよく取り扱います。

テキスト

「健康科学」（配本テキスト）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

領域	割合	評価基準
受講態度	20%	スポーツ種目に取り組む意欲・態度を基準とする。
課題	10%	ペアや仲間と一緒にスポーツを楽しむためのリーダーシップや周りへの配慮ができるかを基準とする。
その他	20%	各スポーツ種目の技能やその上達度合を評価する。
単位認定試験	50%	受講により、スポーツ感がどのように変わり、自己や周囲の人の健康にどのように関わるかを論じられているか基準とする。
特記事項		上記4領域の配分割合により100点満点で評価し、60点以上を合格とする。

授業科目名	単位数	学習形態
英語コミュニケーション	2単位	レポート・科目試験

授業の到達目標及びテーマ

近頃では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本授業では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目的とする。

《到達目標》

1. 英語表現の基礎となる文法・構文を運用することができる。
2. 保育現場で使用される英語表現を身に付けることができる。

授業の概要

授業の最初に、英語表現の基礎となる文法事項や基本構文の復習および練習を行う。その後、保育園でのさまざまな生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。

授業計画 テキストによる通信授業

1. 英語の文法(1) (動詞、形容詞・副詞)
2. 英語の文法(2) (比較、代名詞、疑問詞)
3. 英語の文法(3) (進行形、完了形、受動詞)
4. 英語の基礎構文(1) (5文型)
5. 英語の基礎構文(2) (修飾語句)
6. 英語の基礎構文(3) (接続詞、仮定法)
7. 入園準備に必要な英語の学習
8. 登園・降園に必要な英語の学習
9. 室内遊びに必要な英語の学習
10. 外遊びに必要な英語の学習
11. 健康・病気・けがに必要な英語の学習
12. 運動・お散歩に必要な英語の学習
13. 食事に必要な英語の学習
14. 工作・お絵かきに必要な英語の学習
15. おたより・行事に必要な英語の学習

テキスト

「英語コミュニケーション」(配本テキスト)

参考書・参考資料等

「新 保育の英語」 森田和子著 (三修社) (ISBN : 9784384333992)

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。
科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。

